

NO	時期	時期区分	タイトル	場所	概要	提案者
1	前期	前期	災害に強い公園緑地の等のあり方に関する基礎調査		1995年1月に発生した阪神淡路大震災の被災地における公園緑地、オープンスペースが緊急時に住民によってどのように使われ公園緑地がいかに大きな役割を果たしたかを現場から調査し、将来の災害に強い復興街づくりの指針を検討。これらの成果はその後の復興街づくりの指針となった	佐々木葉二
2	2005	後期	『まちづくり協議会とまちづくり提案』出版		震災復興時にセミナーやフォーラムが非常に多く行われ、それまでになく官民学の垣根が非常に低くなり、その影響により「ビジネスモデル化」が、オープンな「実践の理論化」といってもよいようなものに変化する状況が生れた。『まちづくり協議会とまちづくり提案』は、このような背景の中で生まれた新長田駅北地区東部(震災復興土地区画整理事業)まちづくり支援の「実践の理論」である。	久保光弘 (土井幸平、前田裕資)
3	前期	前期	東部新都心HAT神戸・ランドスケープデザイン	神戸市HAT神戸	大震災からの復興をめざした120haの大規模早期復興住宅の建設。災害に強い安心安全な街づくりと高齢化社会への対応が強く求められ、「連続系オープンスペースの確立」「街区型住棟配置」によって「自然が骨格」「日常からの安全安心」をテーマに集合住宅のランドスケープを設計	佐々木葉二
4	2001-2009	後期	南芦屋浜コミュニティ・アート計画	芦屋市南芦屋浜	震災復興公営住宅団地における「育てる環境とコミュニティ」をめざした環境デザイン運動である。実行委員会の委員長をつとめ、住宅地計画における「暮らしのワークショップ」と「アートワーク」の調整を行った。	小林郁雄 (江川直樹)
5	2001-2009	後期	六甲道駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業における都市デザイン、そのプロセスと成果	神戸市六甲道	阪神淡路大震災の復興再開発事業で、その大規模性・緊急性・公共性において数多くの専門家集団(JUDI構成メンバー)と、揺るぎない基本方針の早期提示を行いながら、法制上の限界を克服すべく「二段階都市計画」を採用した行政機関と神戸市が従来推し進めてきた「街づくり協議会方式」による地元街づくり協議会との協働の成果として、5.9haの整備を10年という短期間で実現した事例	齋藤彰良 (有光友興)
6	2001-2009	後期	阪神・淡路大震災 復興10年総括検証(まちづくり分野)、復興10年委員会、2005年	兵庫県	まちづくり分野部長、とりわけ、「街並み景観、歴史的建造物における取り組みの成果と課題及び提言」担当	鳴海邦碩 (土井幸平、小林郁雄、中瀬勲、角野幸博)
7	2001-2009	後期	『失われた風景を求めて: 災害と復興、そして景観』	兵庫県	共著	鳴海邦碩 (小浦久子)
8	1995-2005	前期	市街地整備に関する一連の調査	兵庫県	① 密集市街地整備事業(1995~1998) - 田舎の密集市街地の震災復興: 特に淡路での集落整備として ② 都市防災研究(2000~2003) - システム的な都市整備: 防災総プロのとりまとめ ③ まちづくりセンター(1998~2003) - 行政とコンサルタンの結合: 震災復興により成立したものの衰退	難波 健
9	1995-1997	前期	西宮市森具地区震災復興	西宮市森具地区	西宮市森具地区10.5haの復興まちづくり策定。業務にあたりとくに従来地区が備えていた“地域の文脈”を把握しこれを活かしたまちづくり及び区画整理設計を行った。幅広い視点からの活動とまちづくり提案・デザインが早期まちづくり整備と住宅再建につながった。	田村博美
10	1995~2009	前期	新長田駅北地区東部(震災復興土地区画整理事業)まちづくり支援		まちづくり協議会が主体となるまちづくりでは、公共施設のデザインや地区計画のみならず、みんなで共有し取り組むまちづくりビジョンや地域活性化、共同建替、住民の自主運用による町並みルールづくり、整備後の公共施設の管理や地域の安心安全の取り組みなど、予想を超えた広がりで展開された。これにより我々は、住民主体まちづくりが都市環境デザインの可能性を上げることを知った。	久保光弘 (小林、三好、三輪)
11	1995-	前期	阪神淡路大震災の復興事業	阪神間	公団は兵庫県と神戸市などからの緊急要請に応え、それまでの都市開発の経験と実績から、速やかに体制を構築し、すばやい活動に着手した。3つの事業 ① 最も被害の大きかった密集住宅市街地への取り組み、② 被災者を収容するための大規模な住宅建設(HAT神戸)、③4つの駅前市街地再開発事業に同時着手	千葉桂司
12	1991-2001	前期	神戸市三宮北部地区の阪神淡路大震災からの復興プロセスに関する定点観測調査	神戸市三宮	『街の復興カルテ』プロジェクト(代表鳴海邦碩)に参加し、神戸市中心部の盛り場の復興プロセスを追った。土地利用およびテナントの入れ替わり動向を追跡するとともに、入居者や来街者へのアンケート調査もおこない、盛り場空間の変化要因を調査	角野幸博
13	1991-2000	前期	弓木町4丁目地区第一種市街地再開発事業<安心と潤いの都心居住>	神戸市地蔵市場	大型店・コンビニエンスストア等の出現による競争激化と生業としての経営者の高齢化と後継者難、消費者の志向変化への対応能力の喪失等もあってその役割を終え衰退しつつあった「地蔵市場」の零細権利者主体の土地利用転換型の市街地再開発事業で、事業化途上で阪神淡路大震災を経験し、自前型の「応急仮設」の建設から「恒久復興」を目指す市街地再開発事業を現実的水準で実現したものである。	齋藤彰良
14	1991-2000	前期	阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク		都市環境の多くに責任をもつ都市計画家、建築家、それらの研究者などが、阪神大震災被災地での活動をネットワークした時に、世話人を務めた。都市環境デザインをすすめる基本体制を構築する重要性を示した。 ・多くのJUDI会員を含む専門家がそれぞれ重要な役割を果たし、全国的にも支援の輪ができた	小林郁雄
15	1991-2000	前期	阪神・淡路大震災直後に実施した被災状況マップの作成	神戸・阪神間		井口勝文(鳴海、土井)
16	1991-2000	前期	六甲23(小泉製麻煉瓦工場および木造本社棟の再生活用)	阪神間	1980年代から続けた古建築の再生活用プロジェクト。近代建築資産のコンバージョンの魁となった。震災で倒壊したことは古建築再生に貴重な教訓を残した	井口勝文
17	1991-2000	前期	被災マンションの建て替え事業5件	阪神間	保留床どころか減築を迫られるような既存不適格の建築物もある中で、長年の再開発事業で培った専門家が率先して被災マンションの立替に尽力した。急場の馬鹿力で新しい手法をひねり出すなど、震災復興に道筋をつけるのみならず、今後各地で起きるであろうマンションの再開発に有効なノウハウを残した	井口勝文
18	1991-2000	前期	復興景観マスタープログラム(1998)、伝えたいふるさとの景観(1999)	兵庫県	震災によって失われた被災地域の景観の復興を通じて、こころの安らぎを取り戻すべく、風景(物的、心象)の記憶を呼び戻すプログラムを検討した。当初はマスタープランだったが、マスタープログラムに変更した	堀口浩司 (小林、鳴海、小浦、中瀬、安田、三輪)
19	1991-2000	前期	都市復興支援研究活動並びに復興まちづくり検証活動(1995年~1997年)	兵庫県	日本都市計画学会関西支部では、震災直後から精力的に復興支援活動を行ってきたが、震災後1年を経た1996年2月に3つの部会に再編して復興支援活動を継続した。その一つである都市復興研究部会は、中間報告「震災都市復興の1年」を、「ここまで来た震災復興 1997」を公表した。復興初期に、復興の実態と全体像を定期的に把握公表し、そのつど復興計画を検証し、復興推進の課題を提示することに努めた。	土井幸平
	1991-2000	前期	若宮地区震災復興住環境整備	芦屋市	震災で壊滅的被害を受けた住宅地区の復興を、戸建て住宅と、分棟分節化された積層公営住宅の混在型配置で解決し、公営住宅の中に路地等の従前空間要素を配して連続させ、新しいが懐かしいリニューアル型の地区再生(震災復興)を実現	江川直樹
21	1991-2000	前期	住民参加のせせらぎづくり 松本通	神戸市松本通り	住民参加が本格的に高まった時代のデザイン。都市環境デザインが人をつなぐ役割を担う	横山あおい
22	1991-2000	前期	神戸市震災復興計画の一連の業務	神戸市	区画整理事業案策定→地元まちづくり協議会コンサルタント→共同建替案策定→大道通5丁目共同建替竣工	三好庸隆